

2026

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

2027

1

2

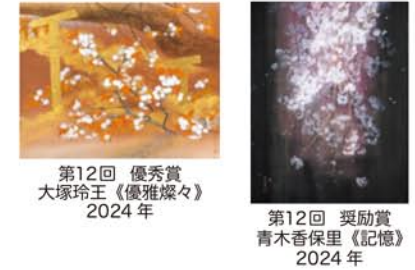
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
						1						1	2																					
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	13	14	15	16	17	18	11	12	13	14	15	16	17	
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30				23	24	25	26	27	28	29		
30	31													29	30						27	28	29	30	31		25	26	27	28	29	30	31	

2月24日(火)～5月10日(日)	5月16日(土)～6月14日(日)	6月23日(火)～8月30日(日)	9月8日(火)～11月29日(日)	12月8日(火)～2027年2月14日(日)
第13回 桜花賞 展	第6回 FROM	Clear	煌めく現代日本画	Duet/ 二人展
The 13 th Oka-Sho Award Exhibition	—ここからの日本画—	—澄みわたる夏—	—伝統の装飾美—	野地美樹子 / 芝 康弘
	The 6th FROM Exhibition	The Clear Exhibition	The Brilliance of Contemporary Nihonga Exhibition	Mikiko Noji / Yasuhiro Shiba



第12回 大賞 大村有香《潤み桜》2024年

気鋭の現代日本画家たちが、日本美術でおなじみの「桜」という大変難しいモチーフをそれぞれの持ち味を活かし素晴らしい桜の絵画に仕上げたコンペティション形式の展覧会です。作家たちの個性豊かな桜花の美しさをどうぞお楽しみください。



第12回 優秀賞 大塚玲王《優雅燦々》2024年

第12回 奨励賞 青木香保里《記憶》2024年



第6回 FROM

日本美術界で活動してきた作家たちが研究・挑戦・発表を目的としたグループ「FROM」。第6回目を迎え、メンバーを新たに「FROM」から日本画の発信や拡大という意味をこめて—ここからの日本画—さらなる挑戦が始まります。出品作家は、石原孟、押元一敏、加藤ゆわ、川又聡、木下めいこ、野地美樹子、能登真理亜、安原成美、山浦めぐみ(五十音順)の9名。彼らの伝統を継承しながらも枠にとらわれずに独自の表現を追求し続けている本展をどうぞお楽しみください。



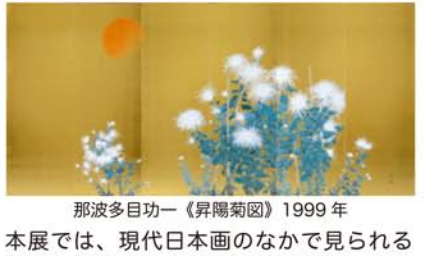
藤城正晴《Mineralization(Meiji+Jingu)》

本展では、視覚・聴覚など五感を刺激する夏にふさわしい澄みわたる現代日本画を展覧いたします。現代日本画家の眼を通して描かれる自然の情景は、風景とともに空気や画家の心象が描かれており、澄み渡るような表現が多く見られます。そして、夏空や水面の透明感あふれる風景は、作品に入り込むような臨場感があります。自然のなかでゆったりと心が澄むような展示をどうぞご堪能ください。



那波多目功一《さざ波》1994年

林 潤一《富士晴嵐》2005年



那波多目功一《昇陽菊図》1999年

本展では、現代日本画のなかで見られる「装飾」の魅力を、作品を通して紹介します。「装飾」とは、文化や社会のなかではぐくまれた美意識であり、美しく飾ることだけではなく、人々の“こころのかたち”も映しだしています。作品に描かれた生活のなかで見られる室内表現や服飾の質感・文様などに込められた美意識を通して、私たちの暮らしとのつながりをご紹介します。華やかに煌めく現代日本画の装飾をご堪能ください。



阪野智啓《しきたへの》2011年

阪野智啓《紫明抄》2011年



野地美樹子《Shijima》(右隻) 2024年

当館では、二重奏を意味する「Duet」と題した二人展を開催いたします。今回は当館所蔵作家から最前線で活躍しており、人気を博す芝 康弘 / 野地美樹子の二人展を開催いたします。

芝 康弘は、日本美術院特待として、ノスタルジックな動物画や人物画、特に小さな子どもを描くことで定評のある作家です。作家のあたたかなまなざしは、動物や小さな子どもを素朴に表現し、きらめくような一瞬を切り取って金を用いた光の表現からなる制作が特徴的な作家です。

野地美樹子は、個展や大作のグループ展で精力的に制作を続けている作家です。四季とともに、日本の原風景が残る場所を取材して、渦潮・花・風景を中心に精力的に制作しています。永遠を閉じ込めたような静寂な瞬間を切り取って制作された作品は、見る者を懐かしい気持ちにさせます。

それぞれの作品の魅力を引き立て合うハーモニーのような展覧会をどうぞご堪能ください。



芝 康弘《君に読む未来》

桜のコレクション「桜百景」展

100 Views of Sakura 'Scenes of Cherry Blossoms' Exhibition

満開の桜のお花見ができます

桜の作品を展示する「桜百景」は、桜の名所である目黒川のほとりに位置する当館へお越し頂いた皆様に、「お花見」を楽しんで頂くための展示室となっております。全国の桜の名所・名木を描いた作品を、企画展のテーマに合わせてご紹介いたします。



中島千波《櫻雲の目黒川》2013年



伊達良《さくら川》2013年



芝 康弘《君に読む未来》